



自分の一や断食献金を納めることで、どんな祝福が得られるのだろうか。

神殿結婚からどんな祝福が得られるのだろうか。

この召しで奉仕することで、自分はどのように人から認められるのだろうか。

教会に出席すると、何が得られるのだろうか。

正直でいるとどんなことで得られるのだろうか。

伝道がどんな助けになるのだろうか。

自分の納める自分の一や断食献金は、神の王国の建設をどう助けることになるのだろうか。

神殿結婚をすると、伴侶や子供たちのために仕えるような機会が与えられるのだろうか。

自分の召しは、人を強めるうえでどういう助けができるのだろうか。

自分が教会に出席することで、どうしたら主に対する献身を示すことができるだろうか。

自分が正直でいることで、人に祝福をもたらすことができるだろうか。

伝道中にどうしたら人々を助けることができるのだろうか。

あなたは

受ける人? それとも 与える人?

人に仕えたり、戒めを守ったりする理由について、立ち止まって考えたことがありますか。今月は教会のレッスンで神の王国を築くことについて学びますから、考えてみる絶好のチャンスです。自分でこう質問してみましょう。自分の行動のきっかけになっているのは、何かが受けられるからでしょうか、

それとも与えることができるからでしょうか。

こう尋ねてみると、自分が内向き(自分自身のことを考えている)か、外向き(人のことを考えている)か、分かるようになります。

自分が今後受けるはずの祝福について考えるのはかまいません。でも、もし自分が外向きではなく、むしろ

内向きなのではと考えたら、できるだけ見上げるようにしてください。トーマス・S・モンソン大管長は、こう教えています。「忘れないでください。この業は皆さんやわたし個人の業ではないのですから、上を向き、神の助けを求めてもよいのです。」(『最善を尽くして義務を果たす』『リアホナ』2005年11月号, 58) ■